

6 市立図書館における子ども読書活動の推進

子どもと保護者への取り組みの充実

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
124	図書館バリアフリー宣言	だれもが使ってみようと思う、そして使いやすい図書館をめざして、図書館のバリアフリー宣言をし、様々な場面でPRする。 〔108にも掲載しています。〕	新規				17年度より豊中市子ども読書活動推進会議 実務担当者会議で検討した案について、音訳などに関わるボランティアの方や図書館職員の意見を広く募り、「図書館へようこそ」(図書館バリアフリー宣言)を作成した。気軽に図書館を利用してもらうよう周知するために、ポスターを作成し、図書館で掲示するとともに、ホームページでの掲載も行った。	市立図書館
125	読書相談とレファレンスサービスの充実	子どもが読みたい本や知りたいことを見つけられるよう取り組みを充実する。	継続				子どもたちがわかりやすい書架案内や書架表示の工夫とともに、子どもたちが職員に声をかけやすい積極的なフローワークを継続して行う。また、学校図書館とも連絡を取り合いながら、読書相談やレファレンスサービスも充実させていく。	市立図書館
126	豊中版ブックスタート事業「えほんはじめまして」	赤ちゃんにとって親子のふれあいや温かい語りかけが大切なこと、赤ちゃんと一緒に絵本を読みあう楽しさを伝える事業。図書館が子育て支援の場であることや利用の方法についても伝える。4か月児健診時、市内4カ所の会場で行う。絵本のリストや図書館の案内、子ども文庫のしおり等を配布する。また健診未受診者へ「えほんはじめまして」の資料を配布するなど、状況に応じて働きかけを行う。 〔22にも掲載しています。〕	拡充		受診者数 3,275人 受診率 95.1%		19年4月より、本格実施。資料の配布は受診者全員にしている。絵本コーナーに立ち寄ってもらうよう声かけをしており、赤ちゃんと絵本を読む楽しさを伝えるように工夫している。未受診者には保健師が訪問時に資料を配布している。図書館でのおはなし会に参加する赤ちゃんも多くなり、図書館利用につながっている。保護者のプレッシャーにならないように絵本の楽しさを伝えることが難しい。	市立図書館 健康づくり推進課 子育て支援センター 豊中子ども文庫連絡会
127	乳幼児向けおはなし会	「えほんはじめまして」の取り組みをフォローするものとして、乳幼児と保護者が楽しみながら、わらべうたや絵本にふれる機会をつくる。	拡充		実施回数 参加人数	すくすく赤ちゃんタイム、5館で実施、163人	1歳までの赤ちゃん対象のおはなし会 3館で実施。赤ちゃん和絵本を楽しむ専用スペース 2館で実施。保健師を招いての健康相談などのお話と図書館のおはなし会を組み合わせた「すくすく赤ちゃんタイム」5館で実施。保育士を招いての手遊びや遊びの紹介と図書館のおはなし会を組み合わせた「すくすくおはなしタイム」1館で実施。	市立図書館
128	おはなし会	子どもが絵本やおはなしの楽しさを知ることができるよう、図書館でおはなし会を定期的に行う。	継続		参加人数	のべ16,478人	各図書館で定期的実施。小学生高学年の参加は少ないため、プログラムやPRについて工夫が必要。	市立図書館 おはなしボランティアグループ

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
129	「えほんにたち」	「えほんはじめまして」の取り組みをフォローするものとして、経験豊かな講師を迎え、0歳前半と後半などの発達段階に分け、親子で一緒に楽しみながら、読書の大切さを感じる取り組みを図書館などで行う。	継続		実施回数 参加人数	4館で計8回実施、 162人	申し込み者は18年度よりも減少傾向ではあるが、参加者には絵本を赤ちゃんと一緒に楽しむことが伝わったように思う。図書館での定例の赤ちゃん向けのおはなし会が定着してきたこともあり、今後のあり方を考えていく予定。20年度は職員の研修もかねて、4館で実施予定。	市立図書館
130	絵本講座の開催	子育て支援の講座のなかで、親子が一緒に楽しみながら読書の大切さを感じる取り組みを、関係機関・団体と連携して行う。 〔1、9、25、102をご参照ください。〕	拡充		実施回数 参加人数	36回 1,433人	子育てサロン・サークルなど「実際に読んでもらう楽しさを味わうことが中心の絵本講座」(出前おはなし会)と子育て支援センター・保育所・幼稚園・学校等での「子どもに絵本を読むことについての講話を中心にした絵本講座」(保育あり)の2種類のニーズに応じたプログラムを実施してきた。 子どもの読書に関心が高く、様々なおはなし会や講座に参加する保護者と、講話や本より、保護者同士の交流や子どもの遊びの場を求める保護者に分かれるよう伺える。保護者向けの講座と合わせて、教諭や保育士など、子どもに関わる大人への絵本講座を行うことによって、すべての子どもの読書環境を推進することが大切である。	市立図書館 関係機関・団体
131	情報検索の講習会	子どもを対象とした図書館の情報検索について講習会を行う。	継続		回数	1回	一度に多くのパソコンを用意しなければならないことや具体的な講習内容など課題が多く、まだ実現できていない。小学校での講習は1回実施した。	市立図書館
132	「子どもと本のまつり」 「子どもと本のつどい」	子どもが絵本の読み聞かせやおはなし、手づくり遊びなどを楽しむ「子どもと本のまつり」や講演会、ワークショップなどの「子どもと本のつどい」を豊子連と共催して行う。 〔15をご参照ください。〕	継続		実施回数 参加人数	子どもと本のまつり(子ども239人、大人82人)、子どもと本のつどい(3回、206人)	今年で26回目となる「子どもと本のまつり」は昨年に続き、「おはなしボランティアポケット」と「おやこでいほんご」の協力を得て、おはなし会やおりがみ教室を行った。18年度の反省を受けて時間帯や開催日を変更したこともあり、子どもたちの参加が増えた。「子どもと本のつどい」については、「絵本は赤ちゃんから」佐々木宏子さん、「福知伸夫の絵本作り」福知伸夫さん、「10代の先って何がある？」中田なおきさん、関岡香さん、田部幸助さんの3回実施となった。「10代の先って何がある？」は千里図書館リニューアルオープン記念事業としても行い、千里図書館の新しいヤングアダルトコーナーをPRした。	市立図書館 豊中子ども文庫連絡会 (豊子連)
133	伝承遊びの場づくり	地域の大人による、伝承遊びや昔語りの場を提供する。	継続			「むかしあそび つくってあそぼう」(子ども32人、大人13人)	図書館で地域の子ども文庫の世話人やおはなしグループのメンバーによるおはなし会を行い、子どもたちが昔話を聞く場となっている。また、東豊中図書館では「むかしあそび つくってあそぼう」を開催した。	市立図書館

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
134	子ども対象の催し	折り紙や手作り工作をはじめとした地域子ども教室など、子ども向けに行っている行事を充実し、子どもと本をつなぐ機会とする。	継続		実施回数 参加人数	地域子ども教室3館116回実施、参加2,430人。子ども向け映画会4館60回実施、1,077人参加。手作り工作など子ども向け行事4館、15回実施、464人。	地域子ども教室や図書館が主催する子ども向けの行事を行うことで、地域の子どもたちが図書館に来館して本に親しむ機会となっている。	市立図書館
135	「おはなし指導者派遣事業」	豊中おはなしの会の協力を得て、日ごろ図書館を利用しにくい子どもたちに出前のおはなし会を行う。 〔58、83、100にも掲載しています。〕	継続		おはなし会の回数 参加人数	8ヶ所で9回開催、参加人数は984人	19年度は、民間保育園1ヶ所、私立幼稚園2ヶ所、小学校2ヶ所、支援学校1ヶ所(2回開催)、障害児通園施設2ヶ所でおはなし会を行った。19年度はじめて、民間保育園でおはなし会を実施した。事業をきっかけとして、実施園への団体貸出や読書相談などの図書館サービスが始まった。また、豊中おはなしの会とともに、20年度からの事業のあり方について討議を重ねた。	市立図書館 豊中おはなしの会
136	保育所(園)・幼稚園訪問	保育所(園)、幼稚園に出かけて、おはなし会や図書館の使い方の説明を行い、絵本やおはなしの楽しさを伝える。 〔60にも掲載しています。〕	継続		実施所(園)数	8回	子どもたちの反応はよく、大きな子には本への興味や図書館利用に結びつけることができる。0歳児から参加する場合、効果的なプログラムを組むことが難しい。保育士・教諭への選書の支援や団体貸出など保育現場での読書環境の向上につなげるきっかけとする。	市立図書館 保育所(園) 幼稚園
137	「ようこそ図書館へ」	主に小学校3年生を対象として、小学校へ図書館見学を呼びかけて実施する。	継続		実施校数	39校	子どもたちが地域の図書館にきて、より図書館を身近に感じてもらうことによって、来館につながる大事な機会となるため、継続して行う必要がある。これまで図書館から遠くて図書館見学を実施できなかった小学校に、動く図書館を乗り入れて「ようこそ図書館へ」を行った。動く図書館の見学、本の貸出しや図書館の利用案内などを行った。	市立図書館 小学校
138	講座の開催	保護者や子どものまわりにいる大人に、子どもの読書の楽しさや大切さを伝える講座を行う。	継続		回数 参加人数	子どもと本のつどい(3回)206人、私立幼稚園絵本講座6回184人	18年度より引き続き私立幼稚園の保護者を対象とした絵本講座を実施した。また幼稚園教諭向けの講座もあわせて行った。子どもの読書への関心は保護者によってさまざまである。講座を通じて、保護者に絵本の楽しさ・大切さを感じてもらうことによって、家庭における子どもの読書環境を整えていくことが大切である。また、子どもたちが一日の多くの時間を過ごす保育所(園)・幼稚園での読書環境を整えていくために、保育士・幼稚園教諭への講座が重要である。	市立図書館

子どもの本や読書に関する情報提供

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
139	ブックリスト	本の紹介リストを作成する。	継続				18年度に作成した「赤ちゃん向け絵本の紹介冊子」の一部改訂を実施。幼児向けやヤングアダルト向けなど他の年齢向けのブックリストの作成が課題。	市立図書館
140	ホームページの充実	図書館の子ども向けホームページをより使いやすいものにする。	継続				アクセス数が18年度より減少している。ホームページの更新ができていないことが原因のひとつと考えられる。20年度のホームページリニューアルに向けて内容を検討中。	市立図書館
141	家庭への情報提供	図書館のホームページやケーブルテレビで本の紹介などを行う。 〔6、109にも掲載しています。〕	継続				ホームページでの本の紹介は実施している。ケーブルテレビでの本の紹介は未実施、今後検討していく。	市立図書館
142	新1年生へのPR	「新1年生ピラ」を小学校を通じて新1年生に配布し、家庭に向けて図書館のPRを行う。 〔5にも掲載しています。〕	継続		配布枚数	3,733枚	配布の効果をさらに高めるために、 小学校・学校図書館 とどのように連携していくのか検討しながら、今後も継続していくことが必要。	市立図書館
143	情報検索のリーフレット	子どもを対象とした図書館の情報検索のリーフレットを作成する。	新規				今のところ未実施。すべての図書館にインターネットの検索が可能な利用者向けの情報端末が設置されたので、20年度には作成に向けて着手したい。	市立図書館
144	教職員向け利用案内	教職員向けの図書館利用案内を作成する。	継続				利用案内の内容を検討中	市立図書館 義務教育課 小中学校
145	中学・高校生へのPR	市内の中学校、高校に利用案内やポスターを配布する。	拡充		配布枚数	全中学校・高校1校	各図書館から中学校へ各種の案内等を送付している。高校についてはまだ図書館と十分な連携がとれていないが、一部の図書館では資料の貸出しに結びついているところもある。「子どもと本のつどい」や 高校生向けの読み聞かせボランティア講座などを実施する際には各高校へチラシやポスターなどを配布し、PRに努めた。20年度にはリニューアルオープンした千里図書館のYAコーナーのチラシを近隣の中学、高校に配布予定。	市立図書館

読書環境の整備

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
146	市立図書館の資料の充実	図書館が子どもや子どもの本に関する情報を収集して資料を選書し、児童書の蔵書をさらに充実したものとする。	継続		児童書の受け入れ冊数	15,065冊	18年度同様、こども室の担当者が子どもの本の情報を共有し合うようにしている。利用者からのリクエストや各館担当者からの購入提案についても、選書委員会を通じて積極的に対応している。	市立図書館
147	はじめてであう絵本のコーナー	子どもがはじめて出会う絵本を集めたコーナーを設置する。	継続		コーナー設置数	すべての図書館(9館)	すべての図書館に子どもがはじめて出会う絵本を集めたコーナーを設置している。コーナーでは絵本のほかに地域の情報や子育て情報を提供している。	市立図書館
148	子育て支援	子どもの本とともに子育てに関する資料や情報を提供し、図書館が子育て支援の場のひとつとなるよう環境整備を行う。	拡充				赤ちゃんと保護者を対象にした行事やはじめてであう絵本のコーナーに、チラシや子育てに関する資料を展示している。	市立図書館
149	ティーン向けの資料の充実	ティーン向けの本のコーナーを設置する。	継続				19年度は、リニューアルオープン之机を捉えて、千里のYA(ヤングアダルト)コーナーを刷新した。YA世代向けの資料も新たに2,000冊近く購入し、広くなったコーナーに置いている。コーナー内のテーブルと椅子はYA世代を優先に利用してもらえよう、表示やアナウンスで案内している。	市立図書館
150	資料の充実	図書館が通園施設や支援学校の教職員とともに、施設で活用される資料の情報交換を行い、障害のある子どもにとって有効な資料を研究し、選書の際の参考にする。 〔113にも掲載しています。〕	継続		施設数	支援学校2カ所、通園施設2カ所	施設や学校で活用される資料の、要望やニーズについて巡回時に情報交換している。そして動く図書館車に積み込む資料に反映して、施設や学校の読書環境の整備につとめている。課題としては、施設の職員や保護者が入れ替わるため、継続的に交流の場を持ち、利用方法の説明を実施する必要がある。	市立図書館 通園施設 支援学校
151	外国語資料の充実	関係団体と連携・協力し、外国人市民の意見やニーズを把握しながら、外国語資料を購入や寄贈本を受け入れることによって蔵書を充実する。また岡町図書館の「世界のこどもの本の部屋」をより利用しやすいものにする。 〔111にも掲載しています。〕	拡充		新規受入冊数 所蔵冊数	148冊、 8,456冊	購入冊数:77冊(中国語、韓国語、タガログ語)。寄贈冊数:26冊(英語、フランス語、中国語、インドネシア語)。所蔵冊数:8,456冊。(所蔵冊数については、18年度は岡町図書館世界のこどもの本の部屋に所蔵している外国語児童書の冊数を挙げたが、19年度からは豊中市立図書館全館で所蔵している外国語児童書の冊数を挙げる。参考:18年度 豊中市立図書館全館で所蔵の外国語児童書は8,303冊)	市立図書館
152	外国語資料の検索システムの整備	英語以外の外国語資料について、蔵書検索ができるように研究を行う。 〔114にも掲載しています。〕	新規				20年度末の図書館コンピュータシステムのリプレイスに向け、次期システム更新の課題として多言語対応を検討している。	市立図書館

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
153	動く図書館の巡回	動く図書館が通園施設や支援学校、保育所を巡回して、子どもや教職員が直接選んだ資料を貸出する。	継続		動く図書館で巡回している施設数 貸出冊数	保育所6カ所、支援学校2カ所、通園施設2カ所、14,649冊	約4週間に1回、各施設を巡回して貸出を実施している。動く図書館車に資料をのせて各施設に乗り入れることで、様々な理由で来館が困難な子どもたちが、たくさんの資料の中から自分のお気に入りの本を選び、本に親しむ機会となっている。20年度の動く図書館車の更新に合わせて、施設・一般ステーションを精査し、図書館に来館することが困難な子どもたちへのサービスをより強化していくことを検討している。	市立図書館
154	団体貸出	子ども文庫、保育所(園)や幼稚園、人権まちづくりセンターなどへ団体貸出を行う。(15、45、67、112をご参照ください。)	継続		団体貸出冊数	子ども文庫4,286冊、保育所24,300冊、幼稚園2,134冊、人権まちづくりセンター1,710冊、おはなしボランティアグループ10,872冊	子ども文庫や学校、放課後こどもクラブ、保育所(園)、幼稚園及び自主的な活動グループで10人以上の利用者を有する団体に資料の団体貸出を行なっている。貸出の期間や冊数は利用団体の種別ごとに定められており、図書館では選書の補助や、必要に応じて配本などを実施している。19年度の特徴として、おはなしボランティアグループへの団体貸出は10,872冊(対前年比32.7%増)、幼稚園2,134冊(対前年比50.1%増)と大幅に増加した。	市立図書館
155	放課後こどもクラブへの貸出しと配本	放課後こどもクラブへ絵本や紙芝居などを選書し、定期的に貸出・配本する。平成18年3月現在32ヶ所で実施。(45をご参照ください。)	継続		放課後こどもクラブ貸出冊数	36校、11,826冊	19年度は配本実施校が4校増えて36校となった。貸出し冊数は前年度比0.6%増とほぼ横ばいの状態。およそ4か月に1度、本を入れ替えるために配本をしている。今後は、41校すべての放課後こどもクラブの配本を行えるように、配本システムの見直しなどを行う必要がある。	市立図書館 子育て支援課
156	学校図書館との連携・支援	市立図書館職員と学校司書が日常的に子どもや子どもの本に関する情報を共有する。その中で学校図書館への団体貸出や調べもの、リクエストなどの支援を充実する。また市立図書館の行事においても両者が連携し、内容の充実を図る。	継続				19年度は、学校図書館が豊中市未所蔵の本をリクエストする際の手引きとなる「相互貸借本利用にあたってのお願い」を作成し、さらに利用しやすくした。また、市立図書館で行う様々な行事について、ポスター掲示やチラシ配布などを通して、PRに連携・協力いただいている。	市立図書館 義務教育課 小・中学校

子ども読書活動におけるネットワークづくりと情報交流の推進

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
157	学校・市立図書館連絡会	学校・市立図書館間で資料活用状況等に関する交流(情報交換や研修)の場を設ける。 (90にも掲載しています。)	継続		会合・研修回数	10回(8館×1回+1回+1回)	義務教育課を通じて、市立図書館の担当者と担当する地域の小学校・中学校の学校司書と会合を持った。図書館の資料を活用した授業の様子や学校図書館の取り組みなど、学校における子どもの読書に関する情報交換とともに図書館における地域の子どもの読書に関する情報交換を行った。また、毎年年度当初に行っている地域館における学校司書との会合のほか、19年度は、学校図書館連絡会中学部会と市立図書館との初めての会合や、学校図書館連絡会の場で市立図書館職員が講師となった研修も行った。このような機会を増やし、交流をさらに深めていくことができるように検討しつつ、継続していく。	義務教育課 市立図書館
158	小児科などの医院との連携	地域の小児科などの医院と、子どもと子どもの読書に関する情報交換を行う。 (2をご参照ください。)	新規				今のところ未実施。今後は、市立図書館が作成した絵本リスト「赤ちゃんと楽しむえほん」を地域の小児科医院などに配布することを検討している。	市立図書館

子ども読書活動ボランティアや市民活動団体への支援の充実

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
159	おはなしボランティア活動への支援	地域や図書館、学校で活動するボランティアに対して図書資料や場所、活動に必要な情報を提供し、講座の開催など学習の機会を保障する。 (16にも掲載しています。)	拡充		貸出冊数 ボランティア支援講座の回数 参加人数	おはなしボランティアグループへの貸出10,872冊。ボランティア講座8回のべ99人、フォローアップ研修講座2回115人。	18年度に開催した「子どもと本をつなぐボランティア講座」の受講者を対象に8回連続講座「子どもと本をつなぐボランティア講座フォローアップ編」を行った。また、活動を行っているおはなしボランティアを対象に「おはなしボランティアフォローアップ研修講座」を実施した。講座の内容や回数など見直しを行うとともに、ボランティアの交流の場をつくり、地域でのネットワーク作りをすすめる取り組みが必要となる。	市立図書館
		「2年間に渡り講座で教わったことを元に基本に戻ることを大切にしながら、子どもたちのために絵本を手渡していけるよう、がんばりたいと思います。」「ストーリーテリングの実習は、本当にドキドキしました。もっと自分に合った素敵なおはなしを見つけて、自分のものにしておはなしが語れる素敵なおばあちゃんになれたらいいなと思います。」「(19年度子どもと本をつなぐボランティア講座フォローアップ編」の受講者アンケートより)						
160	紙芝居ボランティア「紙芝居すきやねん」	市立図書館や地域の公共施設が地域のおはなしボランティアと連携し、小学生・中学生・高校生のおはなしボランティア活動を支援し、活動の場を提供する。 (17、72、91をご参照ください。)	拡充		実施回数	12回	中学生・高校生ボランティアによる幼児向け紙芝居会を毎月1回実施している。また、担当地域の学校司書に相談して参加者募集をした。新たなボランティアを増やすこと、特に長く活動してもらえる小学校高学年のボランティアの募集が課題である。	市立図書館 おはなしボランティアポケット 関係施設

子どもに関わる大人への啓発と研修

No.	事業名	事業内容	区分	状況	指標	19年度実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
161	パネル展	子ども読書に関わる市民・関係団体の活動を紹介するパネル展を行う。	継続		実施回数 参加団体数	3回	「子どもと本のまつり」では、図書館と共催している豊中子ども文庫連絡会や協力をいただいている、おはなしボランティアポケットやおかまち・おやこでにほんごの活動を紹介するパネルを展示している。また「子どもと本をつなぐ地域交流会」では参加する文庫や団体のパネルやポスターを会場に展示している。今後は交流会などの会場内だけでなく、広く市民にも活動団体やその取り組みを紹介することが課題となる。	市立図書館
162	教職員への取り組み	夏休みを利用して、教職員向けに図書館見学会や図書館・図書館資料の効果的な活用を提案する。 (94をご参照ください。)	新規				20年度は実施予定。	市立図書館 義務教育課 小中学校
163	情報交流と研修	図書館や関係機関等で行う講座や研修の情報を共有し、学習の機会を広げる。 (76、123をご参照ください。)	拡充		研修回数 参加人数	1回、 39人	佐々木宏子さんを招いて行った「子どもと本のつどい」の第2部を「幼児の心理発達と絵本」として市内の民間・市立保育所(園)、幼稚園、子育て支援センター・障害児通園施設に呼びかけて保育士・幼稚園教諭への研修の機会とした。	市立図書館 関係施設
164	図書館職員研修	図書館の児童サービスに関する研修を充実する。 (54をご参照ください。)	拡充		研修回数		講座や行事の際には、図書館職員が研修もかねて参加している。19年度は「子どもと本のつどい」「子どもと本をつなぐボランティア講座フォローアップ編」「おはなしボランティアフォローアップ研修講座」「えほんにたっち」などに参加した。また、大阪子ども文庫連絡会主催の児童文化講座への参加も研修の場となっている。こども室担当者だけでなく、各図書館で行っている定例のおはなし会を担当する職員も講座や行事に参加することで、児童サービスの充実を図っている。今後の課題としては計画的な児童サービスに関する研修を行なうことがあげられる。	市立図書館